

シルバー やまがた

第125号 平成29年1月1日発行

(公社)山形市シルバー人材センター
正会員数 1,037名 賛助会員 44個人・70団体(12月末現在)



唐松観音 (第7地区 渡辺 彰さん撮影)

—— 内容紹介 ——

- | | | | |
|----|--------------------|------|-------------|
| P2 | 新年のご挨拶 (山形市長) | P5 | わが街自慢 |
| | 新年を迎えて (理事長) | P6~7 | 会員のひろば |
| P3 | 事業普及啓発促進活動を実施 | P8 | 就業会員を訪ねて |
| | 安全就業推進活動 | P9 | 人あり・技あり・心あり |
| P4 | 地区班班長と理事との意見交換会を開催 | | 新入会員紹介 |
| | 地域紹介「わが街自慢」を継続 | P10 | 事務局だより |

ホームページでもご覧いただけます。

山形市シルバー人材センター

検索





新年のご挨拶

山形市長 佐藤 孝弘

新年、明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

公益社団法人山形市シルバー人材センターにおかれましては、日頃より「自主・自立・共働・共助」という基本理念のもと、会員の皆様の技能や経験を活かした就業活動や各地区での清掃ボランティア活動など、多岐にわたる事業を展開され、地域社会の活性化と福祉の増進に大きくご貢献いただいております。長瀬理事長をはじめ会員の皆様に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、少子高齢化の急速な進行による人口減少社会を迎え、団塊の世代の定年退職による労働力不足や現役世代の社会保障費の負担増等が大きな課題となつている中、将来にわたり社会の活力を維持していくためには、健康で就業意欲の高い高齢者が地域経済の担い手として活躍できる多様な就業機会を確保していくことが不可欠であります。

このような中、山形市におきましては、「いきいきと年齢を重ねられるまちづくり」を重点政策のひとつに掲げ、高齢になつても自分らしく生きがいのある充実した生活を送り、積極的に社会参加できる環境づくりに鋭意取り組んでおります。

こうしたまちづくりを着実に推進していくためには、地域社会の労働ニーズと豊かな経験で培われた知識や技能をお持ちである高齢者の労働力を結びつける貴センターのお力添えが不可欠でありますので、今後とも、本市の高齢者福祉の推進により一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。そして、会員の皆様、これからもますますお元気で活躍されますことを心からご期待申し上げます。

結びに、公益社団法人山形市シルバー人材センターのますますのご発展と、新しい年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい一年になりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。



新年を迎えて

理事長 長瀬 洋男

明けましておめでとうございます。会員の皆様には、輝かしい年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。また、昨年中は皆様には特段のご支援、ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

昨年は、平成二十八年度事業計画において、安全就業推進委員会から「三年間事故ゼロ」の取組方針を発表させていただき、会員の皆様からは安全就業を心がけていただき、事故ゼロの状態が続いております。

最近の報道によりますと、全国的に高齢者の交通事故が増加しております。それらの原因は様々ではあります。まずはご自分の健康管理、ご家族の健康が第一であります。これからの安全就業の取組みとともに、交通安全についてもご留意いただきたいと思います。

また、「イチイチ運動」の取組みのうち、会員数については、六年ぶりに千人を超えることになりました。各地区の班長さんをはじめ、会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今後とも会員一人一人が友人、ご近所の皆様にご紹介してくださるようお願い申し上げます。

平成十九年度から認可外の一時預かり保育事業「めんこいひろば」を運営してまいりましたが、諸般の事情により残念ではありますが本年三月をもって十年間の運営に幕を下ろすことになりました。この間、多くの会員の皆様のご支援・ご協力をいただきましたことに対し心より御礼申し上げます。

今後は、全シ協の重点施策でもあります現役世代サポート事業の保育補助、介護補助業務を推進し、会員の就業確保に取り組んでまいります。今年一年が皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



事業普及及啓発活動を実施

総務部会・広報部会

その他の活動

十月の全国一斉シルバー事業普及啓発促進月間において、次の普及啓発活動を行いました。

会員による街路清掃奉仕活動

①十月二十六日（水）、山形駅西地区を四ブロックに分け清掃奉仕活動を行いました。

これまで互助会のいも煮会にあわせて馬見ヶ崎河畔の清掃活動を行ってきましたが、今回は別の日に新たな場所で行いました。

当日は百二十四名の会員が四班に分かれ、十時から約一時間、道路沿いの清掃を行いました。

②また、各地区の研修会の開催にあわせて公民館や公園などの清掃活動を行いました。

役員による街頭啓発活動

十月二十五日（火）、イオン山形南店・北店恒例の「火曜日」にあわせて役員、専門部会員三十名が十時から十一時まで、九九〇枚のPRチラシを配布しながらセンター事業の利用と会員の入会勧誘を行いました。



①市役所市政記者クラブへ啓発活動内容等についての情報提供

②十月二十三日（日）から二十五日（火）まで山形テルサで開催された互助会主催の文化祭、女性部会の創作品頒布会場でのPRチラシとパネル展示による事業の紹介と入会の勧誘

文化祭、頒布会の入場者三四人

③県シルバー人材センター連合会主催安全就業推進大会への参加

④会員による一・一運動の推進

抜き打ち安全パトロール実施報告 安全就業推進委員会

安全・適正就業月間に実施している安全就業パトロールの他に、毎年抜き打ちの安全就業パトロールを実施しています。適正就業月間期間中は、請負作業の屋外作業と施設関係を中心に行っていますが、秋の抜き打ちパトロールは派遣事業所も含めて屋内作業関係を重点的に実施しています。

事前にパトロールの日時等は会員に連絡せずに十一月十六日から十八日の三日間「抜き打ち」で就業先を訪問しパトロールを行いました。派遣業務先は施設の送迎関係の運転業務、請負業務先は駐車場管理と施設の清掃関係の就業先九カ所のパトロールを実施し、現場で会員に対する安全・適正就業の指導を行いました。今回は、指導項目を明確にし、就業先の問題点のヒヤリングも行うパトロールを実施することにし、送迎業務では、特に冬場に向かい車間距離をとっての運転と車からの降車時の転倒防止に最善な注意をお願いしました。駐車場管理就業

者には場内凍結することがあるので転倒防止に注意し、場内の



巡回をお願いし、清掃関係の会員には清掃・リネン交換等の運搬は仲間と声を掛け合いながら作業をするように指導を行いました。また、就業者の方には冬期間に多く発生する通勤時の転倒には十分注意して頂くこともお願いしました。

チェックリストによって細かなチェックをすることにより、会員の安全意識も高まり、緊張感をもって仕事をしてもらえるかと確信しています。これが結果的に無事故につながると信じて……。

最後に、三年間「事故ゼロ」を目指し事務局と委員が心して活動を展開してまいりますので、会員の皆様も健康で元気に就業を継続するためには、「安全第一」を心掛け、初心に戻り就業をお願いいたします。

地区班長と理事との意見交換会を開催

総務部会

昨年十月十一日、山形テルサ大会議室において、標記の会議を開催いたしました。

理事長から「平成二十二年度を最後に会員は一〇〇〇名をきっている状況が続いているが、今月の理事会での入会承認後は一〇〇九名となりました。全国的に会員が右肩下がりの中、当センターの会員が増えているということは、常日頃班長さん方が地区での呼びかけをいただいている賜物と感謝申し上げます。本日は忌憚のないご意見等を言っていただきセンターが益々繁栄していきますようお願いいたします。」とのあいさつがありました。

続いて、例年のように各部会・委員会から主な事業の活動状況や課題について説明がありました。

特に安全就業推進委員長から、今年度から掲げた当センターの重点目標である「三年間事故ゼロ」が達成できるようお願いの絶大なるご支援・ご協力をお願いしたいとの発言がありました。

次にフリートークキング形式で班長さんからのご意見や要望等が出されました。なかでも、「昨年度よりも会員数が減っている。又、地区研修会への参加もいつも同じようなメンバーで、全く参加されない人もいます。これらを解消する良い方策があればご教示いただきたい。」という発言がありました。同じように悩んでいる班も相当数あったようですが、一方で積極的にこれらの問題に取り組み実践している地区班もあり、その取り組み内容等をお話し頂いたことで、今後取組む上での参考になったのではないのでしょうか。

地区研修会への参加増については、やはり会員一人一人の自覚と協力がなければ難しいと思われまますので、世話役の方々からお声がかかった際にはどうか思い切って、顔を出して頂けませんでしょうか。一人でも多くの参加者があれば少しは班長さん方の肩の荷も軽くなるのではないかと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

地域紹介「わが街自慢」 継続のお知らせ 広報部会

地域紹介「わが街自慢」パートIIは、平成二十五年七月一日発行の第百十一号から毎回二地区を紹介してまいりましたが、本号での紹介をもってひと区切りとなりました。

このあとの企画について、平成二十七年十月の地区班長会議に諮ったところ、「継続」ということになり

「わが街自慢」パートIIの紹介内容

地区名	発行年月日	号数	内容	投稿者
第 1	H27. 4. 1	118	変わりゆく街なみ	菅原 清一
第 2	H25. 10. 1	112	上町勢至堂と年中行事	山口 貞治
第 3	H26. 7. 1	115	鳥海月山両所の宮と県鳥オシドリの飛来	清水 勇
第 4	H28. 1. 1	121	三島神社と例祭	明石 務
第 5	H28. 4. 1	122	光明寺ともみじ公園	佐藤 武則
第 6	H27. 10. 1	120	車不要のくらしができる街	伊東 義雄
第 7	H28. 4. 1	122	財部稲荷大明神と陸軍三十二連隊	渡辺 彰
西	H26. 10. 1	116	西田中央公園と会員のボランティア活動	樋口 健一
第 8	H27. 7. 1	119	松原浄水場と小水力発電	佐藤 敏弘
第 9	H27. 10. 1	120	馬見ヶ崎川の大改修とコミュニティゾーン	高橋 直義
第 10	H28. 7. 1	123	霞城セントラルからの眺望	上谷 一郎
鈴川 1	H25. 7. 1	111	双月和紙のこと	大滝 守
鈴川 2	H26. 7. 1	115	地区内の名所・旧跡	武田 忠征
鈴川 3	H27. 1. 1	117	鈴川の「おしんめ様」と地名の由来	小笠原重義
千歳	H29. 1. 1	125	伝統芸能と防災のまち	杉澤 輝男
飯塚・樺沢	H26. 1. 1	113	飯塚・樺沢の地名の由来	小山 忠一
東沢	H27. 1. 1	117	蔵王参拝の起点・上宝沢と自然環境	江口 矩雄
滝山	H25. 10. 1	112	山形寺子屋塾と学習支援	奥山 聖司
滝山 1	H28. 1. 1	121	西藏王の籠に抱かれた活気ある街	山口 重雄
滝山 2	H28. 7. 1	123	千歳山と歌枕	沼沢 久雄
出羽・明治	H27. 4. 1	118	千手観音堂と絵馬	庄司榮三郎
金井・大郷	H26. 1. 1	113	発展する嶋地区	藤井 哲
金井	H28. 10. 1	124	健康づくり運動普及推進のマップづくり	今田 一夫
大郷	H29. 1. 1	125	変わりゆく風景に想う	伊藤 卓二
山寺・高瀬	H26. 4. 1	114	三宝岡の風立寺	石山 哲雄
楯山	H28. 10. 1	124	大野目交差点の立体化など変わる地域	工藤 俊二
蔵王	H26. 10. 1	116	蔵王温泉街と共同浴場	堀 修二
南山形・本沢	H25. 7. 1	111	津金沢の大杉	松崎 俊幸
南沼原	H27. 7. 1	119	地域の変容と温故知新	船山 三男
西	H26. 4. 1	114	大曾根太鼓保存会	佐藤 義典

(注) 滝山地区、金井・大郷地区については、地区班見直し前の投稿です。

千歳地区

杉澤 輝男

わが街千歳地区は奥羽本線と仙山線の通る羽前千歳駅の東に落合町・泉町、西に千歳・長町と広範囲に渡っております。地区には千歳小・泉小・四中の三校があり、千歳小は平成二十九年度に木造校舎に改築されます。また落合町にはべにばな国体会場として使用された、山形市総合スポーツセンターがあります。そして現在では山形市宮野球場の新設工事が平成二十九年度の開設に向けて順調に進んで居ります。

千歳地区は郷土伝統芸能の盛んな所で、四月には熊野神社例大祭の芸能大会で長町松ざくし舞・九月の千歳地区文化祭での郷土伝統芸能発表会では千歳学童クラブ・平塚保育園児による祝い太鼓、落合八幡太鼓・沖の原地区の少年田植え踊り・長町地区の長町松ざくし舞・泉町地区の大黒舞・落合町地区の落合八木節唐笠踊り、落合八木節花輪・笠踊りなどがあります。



又当地区は防災意識の強い地区で第三回千歳地区防災研修会が十一月に千歳コミュニティセンターで行われ、体験型訓練では起震車による地震、震度体験・水消火器による訓練・心肺蘇生法の指導・非常食、炊き出し訓練・千歳小学校（二年児童約五十名）の避難、誘導訓練などを行い、「頻発する地震や水害・山形での備え」の演題で山形県防災アドバイザーの千川原彦氏より講演頂きました。千歳地区はこれからもスポーツの町・郷土芸能の町・自主防災の町として発展していくでしょう。

地域紹介

わが街白慢

パートII



大郷地区

伊藤 卓二

つい先頃までは見渡す限り、のどかな田園風景が広がっていた大郷地区にも大きな時代の波が押し寄せ始めた。発達する自動車産業とともに高速道路が山形にも進出し、一九八一年、二〇〇二年にそれぞれ宮城庄内間、上山天童間、そして地区中央部に山形JCTなども建設され、見晴らしの良かった風景も一変してしまいました。そんな大きな変化とともに、周囲の地域開発も年を追うごとに進み、南には嶋地区というベッドタウンも完成し、また道路網の発展に伴い暮らしが豊かにより便利に変化していった。がしかし、その反面失われていくものも少なくはないだろうか。農業が主体である我が県も徐々に農業従事者の高齢化、後継者不足、先行き不安などの問題が山積し、農



業という産業の衰退化が進んでいることを忘れてはならない。地域の開発とは相反する結果なのかもしれないが、時代の波に流されないように、農業の大切さ、故郷の良さを後世に伝え、引き継いでいくことを真剣に考える時代ではないだろうか。時代の流れを止めることは容易ではないが、農業への思いは止めていききたいものです。

活力頂くボランティア活動



栢山地区
古瀬 節子

学校や県庁へ勤務しながら、家族や横浜の妹、宮城の叔母達の手助けに支えられ、二十年間の介護の後、四人の親を見送った。

その間、二年半程、毎週月曜から金曜まで、東京に通つての孫育ても卒業した私は、大きな空虚感に見舞われた。

閉塞感いっぱい介護の中にも、何とか楽しみを紡ぎ、ささやかな幸せを皆で共有したり、希望や夢を膨らませてくれる孫育で、忙しいながらも、誰かから必要とされる幸せに浸っていたのかもしれない。

それが、毎日が、自分の自由と思つたら、かえって落ち着かないのだ。

人は、「心身が健康」で、「行くべき課題」があつて「学ぶ意欲」があれば、何とか生きられると思つていた私は、以前にもまして資格取得の勉強や孫に聞かせる童話執筆やボランティア活動にのめりこんでいった。その中の一つが、「アコーディオンと一緒に歌おう会」の主催だ。

私のアコーディオン演奏に合わせて、懐かしの童謡や日本歌曲を歌っていたのだ。福祉施設や放課後の学童、自治会や各地域の生き生きサロン、知人のお祝い会等でトークも含めて一時間くらいのお楽しみ会だ。

老人福祉施設に行った際に「北国の春」や「水戸黄門」を所望され、演奏できない私の宿題になった。おかげで今では、少しだけだが歌謡曲も弾けるようになった。

声を出す楽しさの他に、常に参加者の脳の活性化を意識している私は音楽クイズやリズム遊びを取り入れたりと展開が早い。そのせいなのかいつもは笑顔がないといわれている方や声を発したくない方がまるで魔法にかかったように私に操られていくという依頼主や参加者の声にびっくり。時には、「また来てね。」

の声は、私にとって何よりの活力となり、人と人との交わりから生まれる不思議なパワーに感謝している。

私とモミジ



西地区
佐々木良樹

十一月九日の読売新聞に山形市の「もみじ公園」が紅葉に染まるとの記事が載っていました。県内の紅葉の名所にあるイロハモミジは江戸・明治の頃に京都の高尾や奈良の吉野から運んできて植栽したものです。

山形に自生しているモミジはヤマモミジ・オオモミジ系で、イロハモミジは山形では自生していません。このように、ほとんどの方はモミジといえば秋の紅葉を連想されると思いますが、芽吹き頃は春紅葉（はるもみじ）といって、秋の紅葉以上の美しさです。山形では四月末から五月の連休の時期が最もあてやかな季節となります。

さて、私の宝物を二つご紹介しましょう。一つは秋田県角館町に親木がある「八竿（やしょう）モミジ」です。年に八回色が変わるといわれるもので、取り木（貴重）ものと、さし木ものを求めました。ちなみに種子

からの実生ものは先祖返りをしてしまうので良いものはできません。

芽吹きは黄金色になり春の空の青さに映えます。二つ

目は長野県安曇野市穂高だけに自生する「有明モミジ」ですが、一般のモミジの葉とは違い九裂片の珍しいものです。我が家のモミジの中では秋の紅葉の筆頭です。

モミジについて紹介してきましたが、シルバー人材の仕事や家庭菜園・書道・民生児童委員等と、やや間口を広げすぎている感もあるので、モミジは現状維持に留めながら各々とのバランスをとって、これからも楽しんでいきたいものです。



ひろば

つながり



健康がいちばん



金井地区
石野 榮一

皆様初めまして。七月にシルバーに入会しました。入会の時の説明会で係の方が健康が一番ですと力説されていましたがその通りだと思いま

多員の

健康・趣味

す。日本の医療費は四十一兆円と聞きおどろいています。特に高齢者が占める割合多いそうです。病気になるようにするにはどうしたらよいのでしょうか？健康の価値観は人それぞれだと思いますが自分は病気になるとは思っていないと思います。でも病気にいかされてしまいます。生活習慣病・ストレス・加齢、生活していく中で皆様がかかえている諸問題、私もわがままな方なので人様に迷惑をかけています。反省しなければと思っっています。私は趣味のヘラ釣りをしてますが天気の良い日は鮎と楽しんでます。山辺温泉でゆっくり楽しんで居ます。これから寒くなるとカゼなどに気をつけなければなりません。温かくして寒さ対策をしつかりしなければと思います。

散歩を通して



蔵王地区
佐藤 恵子

山形市へ引越して、二年になりました。近くを須川が流れ、川辺ではカモたちが泳いでいます。私の大好きな散歩コースからの眺めは最高で、小高い丘に登り四季折々の周囲の景色が眺められます。これからは赤や白の寒ツバキが咲くことでしょう。今からとても楽しみです。

散歩していて昔の面影が残る街道すじやおもむきのある家並みを見つけた時、「歴史があるんだらうな」と思うことがあり、歴史に詳しい弟に尋ねてみることにしました。
○桜田には羽州街道が通っていて、山形城下の南の玄関口であった。
○須川にかかるときわ(常盤)橋は明治時代、三

鳥県令が作った山寺石でできた五連のめがね橋であり、文明開化のさきがけであった。
○明治十一年、イギリスの女



性旅行家のイザベラ・バードが上山から歩いて山形入りした時、ときわ橋は工事中であった。
○めがね橋のときわ橋は写真や絵画、錦絵で残っていて、橋のたもとの東側には茶屋のぼり旗が見えて、にぎやかだった様子がわかる。

今のときわ橋からは想像もできませんが、にぎやかに橋の上を行き来した当時の人々を思い浮かべながら、今までとは違う、どこかわくわくした散歩ができるのではないかと思っています。
「寒い、寒い。」
と家に閉じこもってばかりではいられません。私の散歩の楽しみがまた一つ増えました。

寄稿 気仙沼さんま祭りIN山形へ参加



南沼原地区
升谷 光悦

東日本大震災から早いもので五年半となりました、被災地の皆さんの思いに寄り添いあの惨状や苦難を風化させないで語り継ぐと、やまがた気仙沼会(会長、武田 満氏)が主催する第五回の山形「さんま」祭りへ、山形市シルバー人材センターとして何かご協力いただけないかと

相談をかけられておりました。
その後シルバー互助会の幹事会で相談検討、各愛好会を中心とした連携のもとに三十名(男二十三名、女七名)の参加を頂きました。さすがボランティアに賛同してくれる理解のあるシルバーパワーに感謝いたしました。

九月二十二日(木) 秋分の日に午前八時半から十四時半まで受付五人・列誘導三人・さんま焼き補助四名・おろし配布三名・清掃巡回四名・語り部・写真三名・親子体験五名・本部接待三名。霞城公園内で気仙沼港から水揚げされたばかりの旬のサンマを二千五百人のお腹の中に。当日は天候にも恵まれ楽しい日々となりました。遅い昼食でしたが、サンマ・おにぎり・お茶で腹ごしらえし解散いたしました。大変お疲れさまでした。学生会員中心の実行委員会が祭りを運営、一二〇人を超す学生と一般のボランティアが連携し大活躍でした。

来年も開催予定ですのでボランティアのご支援お願い致します。



青柳自転車保管所
渡辺重則・神戸文行・阿部健次郎
阿部 丞・清野雄三

五名の会員が就業している、青柳自転車保管所を訪ねた。

場所は流通センター内青柳跨線橋の下にある。駐輪禁止区域になつている山形駅東口周辺、西口周辺、及び山形駅南駐輪場、北山形駅駐輪場で放置された自転車が主に運ばれてくる。就業場所は夏暑く、冬寒い。当日は詰所で全会員に取材をした。取材を通じ会員同士の仲の良さが伝わってくる。

就業日は、年末年始を除き土曜・祝日以外の撤去日と返還日。就業時間は午前九時から午後三時まで。日曜日のみ返還日なので午後五時まで。

業務は分類・整理、保管、返還とリサイクル。保管所に搬入される自転車は年間約千台。その内持ち主へ返還されるのは約三五〇台とのこと。また防犯登録番号、車体番号、色等を記録した「自転車保管台帳」を作成し、市に提出。市から警察へと渡す。

盗難された自転車以外は警察が



ら市で所有者の照会を受け、引き取り依頼の案内ハガキが出される。盗難車は市の警察署へ返され、そこで持ち主へ返却される。残る約六五〇台は六ヶ月間保管し引き取りがなければ、センターから市へ譲渡の申し込みを行う。市から警察へ防犯登録の解除を申請。警察で防犯登録の解除を行ったうえ、状態の良い自転車のみシルバーで譲り受ける。ほかはスクラップにされる。

リサイクルは就業している五名の会員がするとのこと。整備の経験と技術があり、好きでないといえない仕事だと言う。これからは雪の降る季節、体調管理には万全を期して欲しいと思う。

(取材・広報部)

就業会員を訪ねて

山形市西公園
遠藤繁治・横尾政雄・遠藤敏雄

晩秋の十一月二十一日に、公園面積十五・六haの広大な西公園を訪問し、シルバー会員のリーダーの遠藤繁治さん、横尾政雄さん、遠藤敏雄さん三名の方にお話を伺いました。担当する施設は園内にある屋内多目的コート(四面)・屋外テニス

コート(八面)です。三名のローテーションで月曜日は二名、その他の曜日は一名が就業しています。就業時間は月曜日が午前五時三十分～二十一時三十分、その他の曜日が午前五時三十分～九時、午後十七時～二十一時三十分までとなっています。そのため朝五時十分には貸出準備などで就業へ向かいます。又、遅刻しないよう当日担当者へ翌日担当の会員が必ず電話をかけるようお願いし連携しているとのこと。また SNS の LINE (スマートフォン) を活用し就業・業務情報をリアルタイムで共有していました。

業務の内容は、①クラブハウスでの窓口受付②許可申請書と使用コートの確認・貸出③パソコンによるコート利用情報入力・使用料金受領保管④安全にプレーできるようコート内外の簡単な整備点検⑤ゴミ収集⑥忘れ物等の確認です。最後に業務日誌を記入して終了です。

入園者も平均して平日で約百人、土日祝日は二百人、多くの来園者との対話はできるだけ笑顔で対応することを心掛けているとのこと。ダブルブッキングなど苦勞する事もあるが「小中高生から元気に挨拶されることで元気ももらっている」とのことでした。

最後に、西公園のために貢献している三名の会員皆様に、貴重な時間を取材に協力いただいたことに感謝します。ありがとうございました。

(取材・広報部)



事務局だより

山形市シルバー人材センター

山形市双葉町一丁目二番三号
電話(0)11-2647164

URL: <http://web.sjc.ne.jp/yamagata>
E-mail: yamagatashi@sjc.ne.jp

「配分金」 所得税法上の取扱い

シルバー人材センターの仕事をし
て得た『配分金』は所得税法上では
「雑所得」として取り扱われますの
で、課税対象者になると思われる会
員の方は各自において最寄りの税務
署に申告が必要となります。

センターでは、平成二十八年度の
配分金の合計額を証明する『配分金
支払証明書』を発行しますので、必
要な方は一月二十七日までに事務所
へご連絡下さい。二月三日以降に事
務所窓口で交付いたします。

なお、『配分金』については、六
十五万円の控除が認められておりま
す。配分金以外の収入がない場合に
は、基礎控除三十八万円を含めて百
三万円まで所得税が課税されないこ
とになります。

また、公的年金を受給している場
合は配分金とは別に所得控除が受け
られます。公的年金控除額は左記の
とおりです。

なお、配分金収入、給与収入、公

公的年金等控除額

受給者の区分	その年中の公的年金等の 収入金額(A)	公的年金等控除額
年齢65歳以上の人 (昭和27年1月1日 以前に生まれた人)	330万円以下	120万円
	330万円超410万円以下	(A) × 25% + 37万5,000円
	410万円超770万円以下	(A) × 15% + 78万5,000円
	770万円超	(A) × 5% + 155万5,000円
年齢65歳未満の人 (昭和27年1月2日 以後に生まれた人)	130万円以下	70万円
	130万円超410万円以下	(A) × 25% + 37万5,000円
	410万円超770万円以下	(A) × 15% + 78万5,000円
	770万円超	(A) × 5% + 155万5,000円

的年金収入以外の収入がある場合の
所得控除及びその他の控除につい
ては、税務署にお尋ねください。

お知らせと お願い



配分金支払日

- 一月二十日 (金)
- 二月二十日 (月)
- 三月十七日 (金)

入会説明会(午後一時三十分)

会員の皆さんからも入会の勧誘を
お願いします。

- 一月十二日 (木) 十九日 (木)
- 二月二日 (木) 九日 (木)
- 三月二日 (木) 九日 (木)
- 三月十六日 (木)

就業相談日(午後一時三十分)

- (就業に關しての相談です)
- 一月十二日 (木)
 - 二月九日 (木)
 - 三月九日 (木)



あしがき

明けましておめでとうござい
ます。
会員の皆様におかれまして
は、健やかに新年を迎えられま
したこととお慶び申し上げます。
昨年度は本誌紙面に皆様の
ご協力を頂き、広報部一同、
厚くお礼申し上げます。
国内は、過去に経験のない少
子高齢化社会による人口減少
と、急速に進行している高齢社
会で平均寿命の伸びとそれに伴
う年金・医療介護が社会問題と
なっています。又、今後、若年
層の労働力不足が深刻になるこ
とが予想されます。高度成長期
を牽引し活躍してきた会員の皆
様におかれましては、IT技術
の進化や便利なネット社会な
ど、取りまく生活環境の変化、
価値観の多様化などがあります
が、今、豊富な知識・経験を
持っている特にシニア世代の
「生き方・働き方」が注目され
ています。企業・事業所は雇用
延長などで対応していますが、
比較的小さなコストで大きな効
果が期待できる人材センターに
は、会員の皆様と一体となり、
今まで以上に多岐にわたる活躍
の場を作りあげる時代になって
きました。時間にゆとりがで
きた人生の後半戦です。健康に留
意して、希望の仕事、サークル
活動、やりたいことのある人生
を、夕日が輝くように生き生き
と元気に過ごしていきたいと思
います。
新しい年も、広報部一同、会
員の皆様へ各情報提供やコミュ
ニケーションづくりに一躍を
担っていきたいと思います。皆
様のご協力よろしくお願ひ申し
上げます。